

本体解説図

遠隔監視緊急通報装置

impulse24SR

インパルス24SR

取扱説明書



(有) 茨城電子技研

〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町726
TEL029 (828) 0711 (代) FAX029 (828) 2177
<http://www.ibaden.net> info@ibaden.net

製品仕様

主要構成部品	2IC, 3TR, 他
検知入力感度	a接点時 100KΩ以下 b接点時 500KΩ以上
電源	S006P型乾電池 (9V)
製品寸法	100×65×35 [±] (突起部含まず)
製品重量	約100g (乾電池含まず)

本製品は、予告なしに改良されることがあります

はじめに・・・

このたびは、遠隔監視緊急通報装置「インパルス24SR」をお買い求めいただきまして誠にありがとうございます。この装置は、異常事態が発生すると同時に接続された携帯電話を自動発信させて通報し、その被害を最小限に抑えるための装置です。

ご利用に際しましては、本書を良くご理解の上、末永くご愛用くださいますようお願いいたします。

■ 本装置の特徴

- ・ 設定により無電圧のa接点、b接点のいずれかのセンサーを複数個接続することができます。
- ・ センサーが1秒以上検知すると接続された携帯電話を自動発信させ、あらかじめ設定された番号に通報いたします。

■ 警告／注意

- ・ 防水構造ではありません。濡らさないでください。
- ・ 携帯電話のバッテリー切れや感度不足に注意してください。
- ・ 回線や電波状況等により正常に発信できないこともあります。
- ・ 異常が連続する場合の発信は一度限りです。
- ・ 携帯電話への充電機能はありません。

■ 製品の保証

通常のご使用において製品に不具合が発生した場合は、お買い上げ後6ヶ月間は無料で修理をいたします。その後は、有償

修理とさせていただきます。ただし、製品の受渡しに関する運賃送料等は、保証期間中も含めてすべてお客様のご負担となりますのでご了承ください。

■ お願い

本装置を使用した上でお客様が被った被害について当社がそれらを補填する類のものではありません。

■ 本装置の使用方法

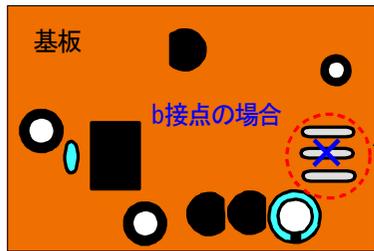
ご使用前に初期設定が必要です。裏面をご覧ください。センサーの種類による a/b接点設定を実施してください。併せて接続時の極性および乾電池の入れ方、携帯電話の設定なども裏面をご覧ください。

- 1 センサーなどからの電線を本体後部の検知入力端子に取り付けてください。通常の場合極性はありません。
- 2 本体後部から出ている携帯電話接続コードの先端のプラグを携帯電話のイヤホン端子に挿入してください。
- 3 S006P型乾電池を極性に注意して装着してください。
(逆接続保護回路が付いています)
- 4 電源スイッチを入れることで警戒動作に入ります。動作表示灯は検知時のみ点灯します。
- 5 設置後、検知センサーを1秒以上動作させ、動作表示灯が点灯し、数秒後に携帯電話が発信することを確認してください。
- 6 着信を受けた側が電話を切ることで携帯電話の表示により課金が止まることを確認してください。
- 7 乾電池の寿命は使用頻度により大きく変化しますので時々確認してください。アルカリ型乾電池のご使用をお勧めします。

センサーについて

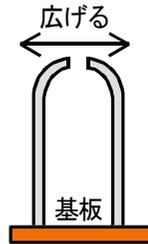
一般的なセンサーには、温度センサーや明るさセンサー、重量センサー、赤外線センサー、臭いセンサーなどがありますが、すべて対象の変化を電気抵抗値や電圧、静電容量の変化などとして出力するものです。本装置では、下記に示すように抵抗値 $0\Omega \leftrightarrow \infty$ の変化(短絡と開放)に対応しております。そのひとつ、a接点とは照明器具の壁付けスイッチのようなもので通常は導通していないが検知すると接点が電氣的に繋がるものです。2本の電線を垂らしておいて水位が上昇してそれらにタッチすること(水は電気を通します)などが考えられます。また、b接点はその逆、電氣的な繋がりが途切れる事となります。例えば端子間に接続された電線が悪意により切断された場合等です。本装置は、a接点とb接点のいずれのセンサーも接続できるように設計されているため、ご使用になるセンサーの種別により設定が必要となります。

a/b接点初期設定方法



ふたを開け、基板上に3本ある逆U字型のジャンパーを下記の指示通りニッパーや爪切り等で切断し、それぞれが接触しないように広げてください。変更する時は切断部をよじるかハンダ付けしてください。

a接点用・・・両端の2本を切断
b接点用・・・中央の1本を切断



センサー等接続方法



常時はオープン状態で、異常時に接点が短絡(ショート)するものです。メーク接点などとも呼ばれています。常時は $200K\Omega$ 以上で、非常時に1秒以上、 $100K\Omega$ 以下となるようにしてください。極性のあるセンサー等でうまく動作しない時は端子の接続を逆にしてください。< 0Ω での短絡時に $5\mu A$ 程度流れます。>

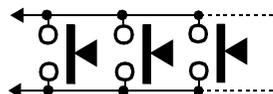


常時はショート状態で、異常時に接点が開放(オープン)するものです。ブレイク接点などとも呼ばれています。常時は $100K\Omega$ 以下で非常時に1秒以上、 $500K\Omega$ 以上となるようにしてください。極性のあるセンサー等でうまく動作しない時は端子の接続を逆にしてください。< 0Ω で常時 $8\mu A$ 程度流れています。>

複数のセンサーを接続することもできます。

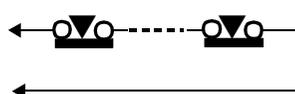
◆a接点の場合・・・

下図のようにセンサーを並列に接続します。



◆b接点の場合・・・

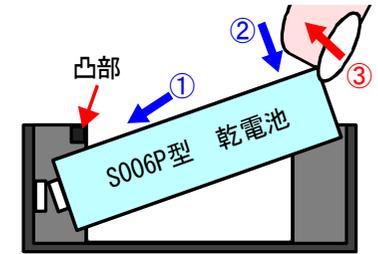
下図のようにセンサーを直列に接続します。



誤結線は故障の原因となります。ご不明の点がございましたら、お気軽にご相談ください。

乾電池の装着方法

- 乾電池を装着する時は、電池ケースの底と乾電池に表示されている極性を合わせ、電池ケースの金具側に付いている凸部の下にすべり込ませるように挿入し①、最後に尻部を強く押して②ください。取り外す時は、尻部を爪で引き上げて③ください。



携帯電話について

- 使用できる携帯電話は、リモート通話機能(取扱説明書に「スイッチ付イヤホンマイクの使い方」が掲載されています)のある機種で平型のイヤホンマイク端子が付いたもののみとなります。

電話機の設定方法

- 携帯電話の取扱説明書の「スイッチ付イヤホンマイクの使い方」をご覧ください。一部の機種では「リモート通話」の設定をONにすることが必要です。
- 説明書にしたがってアドレス帳の指定番号(999など)に通報したい電話番号を登録してください。登録がない場合は直前の発信番号や着信番号に発信することがあります。
- 発信規制等の動作を妨げるような設定をすべて解除してください。また、ナンバーディスプレイ付きの固定電話や携帯電話で着信したときに異常通報と認知できませんので、発信番号は「全表示」にしてください。
- 携帯電話への接続コードのプラグは確実に元まで差し込んでください。
- 着信側の電話機や携帯電話に本装置に接続する携帯電話の番号を登録します。このとき、「ハウス異常」やユニボのナンバーなど判りやすい名前登録してください。
- GPS機能の「いつでも位置確認」等を使用して本装置の現在地を確認するにはあらかじめ登録(有料)やパートナー設定等が必要です。
- 本装置は異常発生時に1回のみ発信をおこないます。着信側の電話機が通話中でも緊急通報を受信するため、キャッチホンや割り込み通話を設定されることをお勧めします。
- 携帯電話の電波状態を確認し、最良の設置場所を探してください。受信感度が悪い場合はバッテリーの消耗が激しくなります。センサーとの接続ケーブルは多少長くなっても問題ありません。
- 携帯電話のバッテリー残量には充分ご注意ください。充電器のコネクターを直接外部接続端子に接続しての常時充電をお勧めします。また、機種により節電設定を行ってください。

お願い

携帯電話は電波を利用しているため、中継局の状態や容量、通話の輻輳、トラクターの側近通過などによって正常に通信ができなくなることがありますのでお含みおきます。